

再び「老健の役割」について ～ (その3)

今月も引き続き、全老健のパンフレットに掲げる「老健の役割」についてお話致します。

その前にやはり大事な話を致します。それは、**新型コロナウイルス感染症対策**についてです。日本においても今、いつ感染爆発（オーバーシュート）が起きてもおかしくない重大な局面に立っています。日常生活も含めて、飛沫感染・接触感染の予防のために、施設方針の他に、**私たち個人ができること**は下記です。

- 1、密室・密集・密接の三密を徹底的に避けること。
- 2、咳エチケットと手指衛生・手指消毒を徹底すること。
- 3、感染予防のための環境整備（ドアノブ・電話受話器・机等の消毒、居室の換気、等）に心掛けること。
- 4、風邪症状等体調が悪くなったら遠慮なく仕事を休み、業務が縮小しても止むを得ないとお互いに認め合うこと。
- 5、新型コロナウイルスの濃厚接触者でなくともその心配が出た時は職場の同僚や上司に遠慮なく相談すること。

以上、5つを守りましょう。

期間は2週間毎に次の2週間の施設方針をその都度決定します。長期戦になるかも知れませんが個人の生活面の不安も含めて職場の同僚や上司には遠慮しないでご相談下さい。

其の上で本日の次の本題です。本日の「老健の役割」は全老健のパンフレットの3ページ目です。

老健は多職種協働で生活リハビリをする所です、ということを見方を変えて一般向けに説明しています。

老健は、できることを増やす!

多職種協働のリハビリテーションマネジメントが老健の基本

老健で提供されるリハビリテーションには、入所や通所の期間中に継続して提供される多職種協働によるチーム・リハビリテーションがあり、その上にリハビリテーション専門職のアセスメントに基づいたケアと一体的に提供されるリハビリテーションがあります。

利用者にとって心身機能の維持・改善や生活機能の低下予防、さらには社会復帰へつながり、とても有効です。

専門の職員が提供するリハビリテーション

- 入所・通所**
 - 認知症短期集中リハビリテーション
 - 短期集中リハビリテーション
- 通所**
 - 生活行為向上リハビリテーション
- 短期入所**
 - 個別リハビリテーション

老健での在宅復帰に向けたリハビリテーションについて

介護老人保健施設における施設サービスの提供（リハビリテーションに着目）

Plan: リハビリテーションを含む施設サービス計画策定のためのカンファレンス（医師・PT・OT・ST・看護・介護・介護支援専門員・入所者・入所者の家族）

Do: リハビリテーションを実施して効果を確認する

Check: モニタリング・リハビリテーション計画の評価または見直し・退所後に利用予定サービス提供と情報提供

Act: リハビリテーションの観点で支援方針や方法の共有

リハビリテーションマネジメント

- 多職種協働によるチーム・リハビリテーション**
 - 日常生活の場面毎に切れ目なく提供されるチーム・リハビリテーション
 - 各専門職のアセスメントに基づきケアと一体的に提供されるリハビリテーション
- ケアマネジメント（リハビリテーションマネジメント）**
 - ケアプラン会議（リハビリテーション会議）
 - アセスメント・訪問指導

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を!

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。
私たちは、利用者の QOL・職員の QOL・健全経営の 3 立を目指します。
私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

話し合いの 3 原則:

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。